View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

研究論文

学生の学習レディネスの実態及び学習の動機づけの試みと評価

ー授業前後のアンケート調査結果の分析ー

工藤　恭子

(2011年12月19日受稿)

抄録：　本研究の目的は、小児保健Ｉを受講する学生の授業前の学習レディネスの実態を把握し、授業の到達目標を達成するための動機づけとして鑑賞したビデオ「赤ちゃんこのすばらしき生命」の教育効果を評価する事である。授業前後に学生 51 名を対象に質問紙調査を行った。その結果、1. 乳幼児と関わった経験「あり」の者は 98.0％であった。2. 乳幼児と関わった機会で最も多かったのは「保育ボランティアで関わった」49.0％であった（複数回答）。3. 乳幼児と関わった内容で最も多かったのは「遊び」98.0％、次いで「散歩」56.9％であった（複数回答）。4. ビデオ「赤ちゃんこのすばらしき生命」鑑賞後の感想で最も多かったのは「ためになった」72.5％、次いで「感動した」70.6％であった（複数回答）。5. ビデオ「赤ちゃんこのすばらしき生命」の鑑賞がその後の授業に「役立った」と思う者は 88.5％であった。以上の事から、小児保健における授業の動機づけとしてビデオ鑑賞は効果があると評価された。

Ｉ. 緒　言

本学科における「小児保健」（来年度からこどもの保健となる）の科目は専門科目の「こどもの理解」として位置づけられ、保育士資格を取得する学生にとっては、必修科目でもある。シラバスでは「小児保健Ｉ」の到達目標として次の３点をあげている。１. 小児保健の意義を理解できる。２. 乳幼児の心身の成長・発達の過程と環境との関わりを理解し、日常生活を援助する視点がわかる。３. 自分なりの育児観を見出す事ができる。特に３番目の目標は、学生自身が親性準備性[1] の時期にあるため、職業意識のみならず、将来自分達が親になるための準備期として、重要な動機づけとなると思われる。今年閉校となった短期大学部幼児保育学科においても、１年次の「小児保健」の授業開始のオリエンテーション時に、本研究で使用した物と同じビデオを鑑賞し感想文を書いてもらうという工夫をした。その結果学生は、胎内の児の能力に感動し、親子関係の重要性を感じ、両親への感謝と、いずれ自分達も親になる事を意識し、心構えができるようであった。小児の健康は胎児期から既に始まっている事を痛感していた。生まれてからが重要なのではなく、胎児期から既に健康への支援がなされている事を自覚させ、実感させる事が教員のねらいでもあった。教科書のみの説明による授業ではなく、視聴覚教材を使用した学習は学生にとって効果的であったと言える。

阿部[2] は大学教育において、映像は「論理の展開よりは、感性、感情に訴えるのが得意である。用い方で強い印象や感動を与えることができる。」と述べている。その後の授業においても、「児の能力を信じ、生まれてからもその能力を大事にしながら保育・育児していきたい」・「もっと知りたい」という意欲・関心に繋がったようである。

また、学生の学習レディネスについては、授業前アンケートから、「何故保育の道を選んだのか」

北海道文教大学人間科学部こども発達学科

「こどもに対してどのようなイメージを持っているか」「こどもと関わった事があるか」等の情報を知る事により、学生の興味・関心を知り、授業を工夫していった。本研究においては、大学教育における「小児保健」の重要性を学生に伝えるためにも、学生の学習レディネスの実態を把握し、尚かつ、学習の動機づけとして鑑賞した視聴覚教材の教育効果を明らかにする事により、今後の効果的な教授法を探る一助としたいと考える。

Ⅱ．研究方法

1.　調査対象者

本学科２年生の「小児保健Ⅰ」を受講した学生51名を対象に質問紙調査を行った。

2.　調査期間

平成23年４月及び７月に調査した。

3.　調査方法・内容及び分析方法

筆者が作成した質問紙を授業の最後（10 ～ 15分で記入）に時間を確保し記入してもらい、その場で回収した。授業前アンケートの内容は次の通りである。①年齢②性別③出生順位④乳幼児と関わった経験の有無⑤乳幼児と関わった機会（複数回答）⑥乳幼児と関わった内容（複数回答）⑦乳幼児に対するイメージ⑧「赤ちゃんこのすばらしき生命」の鑑賞後の感想（複数回答）⑨関心・興味 を持った場面（複数回答）。授業後（15回終了時）アンケートの内容は次の通りである。①授業開始時に鑑賞したビデオ「赤ちゃんこのすばらしき生命」はその後の授業に役立ったか②「役立った」と回答した者の具体的内容。統計処理にはSPSS16.0Jを用いて分析した。

4.　倫理的配慮

調査対象者に対し、本研究の目的及び研究協力は自由意志である事、調査結果は個人が特定されないように統計処理し、研究以外には使用しない事を口頭で説明した。また、この調査は個人の成績には全く影響しない事を口頭で説明し、同意を得た者のみ提出させた。

Ⅲ．結　果

回収数（回収率）及び有効回答数（回答率）は共に51名（100％）であった。

1．授業前アンケート結果

1）年齢（n=49）

無記入2名、18 ～ 21歳、平均年齢19.1±0.5歳であった。

2）性別（n=51）

女子学生42名（82.4％）、男子学生9名（17.6％）であった。

3）出生順位（n=51）（図1）

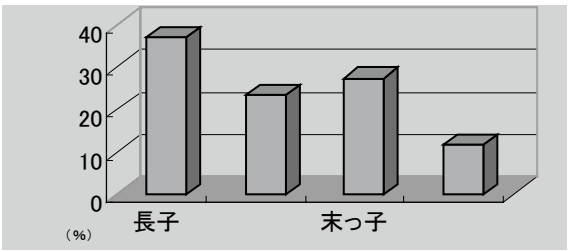

図1　出生順位

最も多かったのは長子19名（37.3％）、次いで末っ子14名（27.5％）、中間子12名（23.5％）、一人っ子６名（11.8％）であった。

4）乳幼児と関わった経験の有無（n=51）

経験「あり」の者50名（98.0％）、経験「なし」の者は女子学生１名（2.0％）であった。

5）乳幼児と関わった機会（n=51）（図2）

（複数回答）

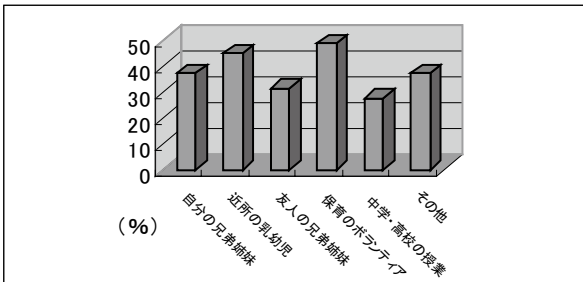

図2　乳幼児と関わった機会

最も多かったのは「保育のボランティアで関わった」25名（49.0％）、次いで「近所の乳幼児と関わった」23名（45.1％）、「自分の兄弟姉妹と関わった」「その他」各19名（37..3％）、「友人の兄弟姉妹と関わった」16名（31.4％）、「中学・高校の授業で関わった」14名（27.5％）であった。「その他」には親戚の子、習い事を教えている、大学オープンキャンパス等であった。

6）乳幼児と関わった内容（n=51）（図3）

（複数回答）

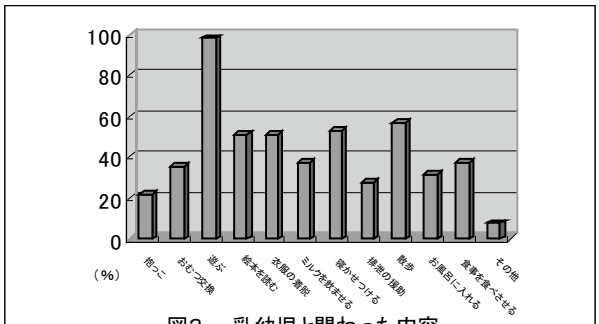

図3　乳幼児と関わった内容

最も多かったのは、「遊ぶ」50名（98.0％）であり、次いで「散歩」29名（56.9％）、「寝かせつける」27名（52.9％）、「衣服の着脱」「絵本を読む」各26名（51.0％）、「ミルクを飲ませる」「食事を食べさせる」各19名（31.4％）、「おむつ交換」18名（35.3％）、「お風呂に入れる」16名（31.4％）、「排泄の援助」14名（27.5％）、「抱っこ」11名（21.6％）、「その他」4名（7.8％）であった。その他の内容は、「歯磨き」「スキー・水泳・柔道を教える」であった。

7）乳幼児に対するイメージ（感情）（n=51）

（図4）（複数回答）

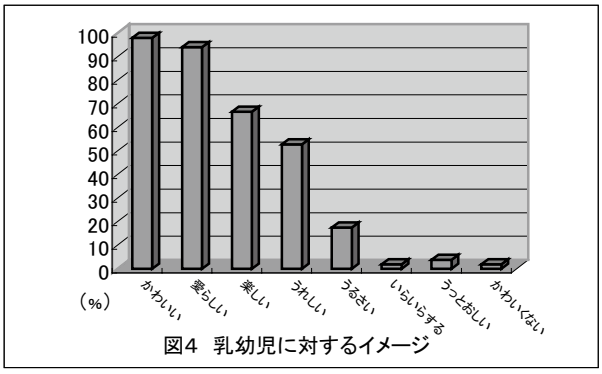

図4　乳幼児に対するイメージ

最も多かったのは「かわいい」50名（98.0％）であり、次いで「愛らしい」48名（94.1％）、「楽しい」34名（66.7％）、「うれしい」27名（52.9％）、「うるさい」９名（17.6％）、「うっとおしい」２名（3.9％）、「いらいらする」「かわいくない」各１名（2.0％）であった。

8）「赤ちゃんこの素晴らしき生命」鑑賞後の感想

（n=51）（図5）（複数回答）

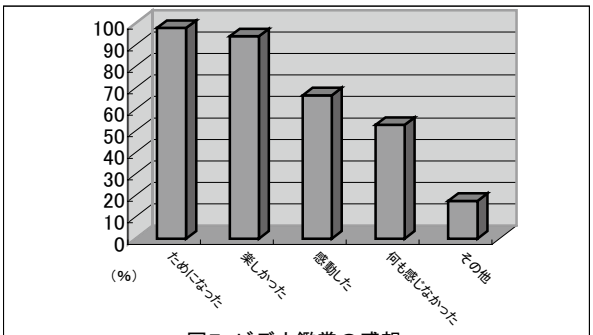

図5　ビデオ鑑賞の感想

最も多かったのは「ためになった」37名（72.5％）、次いで「感動した」36名（70.6％）、「楽しかった」25名（49.0％）、「その他」５名（9.8％）、「何も感じなかった」２名（3.9％）の順であった。

9）関心・興味を持った場面（n=51）（図6）

（複数回答）

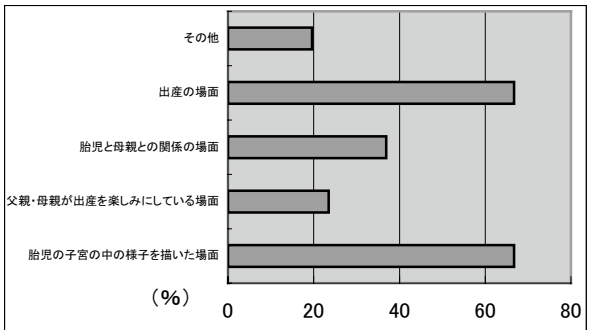

図6　関心興味を持った場面

最も多かったのは「胎児の子宮の中の様子を描いた場面」「出産の場面」各34名（66.7％）、次いで「胎児と母親との関係の場面」29名（36.9％）、「父親・母親が出産を楽しみにしている場面」12名（23.5％）、「その他」10名（19.6％）であった。「その他」の内容は、「生まれてからの赤ちゃんの成長」「赤ちゃんの様々な表情」「胎児が生まれた後でも子宮の様子を憶えているかといった実験」「赤ちゃんは音を聴いているという場面」「赤ちゃんが生まれてすぐ目を開いて周りを見渡している場面」「生まれてからの母親とこどものやりとり・

関わり方」「赤ちゃんの姿･生命の誕生」等であった。

10）鑑賞の感想（自由記述）

最後に感想を紹介する。

① 子宮の中の胎児の様子（14名が記述）

・羊水を飲んで呼吸・睡眠の練習をしている事に驚いた。興味深かった。
・どのように生活しているのかがわかった。
・お腹にいる時から生まれる準備や練習をしている。
・お腹の中の音の記憶の素晴らしさを感じた。
・生命の神秘を感じた。
・胎児の目は見えているのかが気になった。
・競馬の音は赤ちゃんも楽しんでいたのか？
・肺に水が貯まっても大丈夫なのか？
・お腹にいる時から既に「命」として生きている。
・胎教に興味があったので、きちんと聞こえているのがわかってうれしかった。
・生まれる前から能力があり、不思議。
・とてもけなげで愛おしく思った。
・超音波で胎児の姿を見る事ができるのは知っていたが、あそこまではっきり見えるのだなと思った。
・生まれる前から一人の人間なんだ。当たり前の事だが感動した。

②　親と児の関係（10名が記述）

・赤ちゃんがお母さんの様子をうかがいながら母乳を飲んでいるのがすごい。
・両親が赤ちゃんと沢山話しかける事で、赤ちゃんも自分から話したいと感じるようになるから両親の愛情を沢山あげる事が大切だ。
・赤ちゃんが生まれるのを父親も母親もすごく楽しみにしているのが伝わった。
・両親はとても愛情を持って赤ちゃんと接していて、自分もあんな風になりたいと思った。
・母親の言葉と赤ちゃんのやり取りがほほえましかった。
・自分が生まれる前、両親は自分が生まれる事を楽しみにしていてくれたのかが気になった。こういう話を親とした事がないので今度聞いて見たい。
・お母さんと赤ちゃんの「つながり」を深く感じるビデオだった。
・親とこどもの間には特別な関係がある事は知っていたが、それ以上のつながりがあるとわかった。
・誰から教わったのではなく、無意識に、本能的に母子関係を築き上げていて、神秘的で素晴らしい。
・改めて赤ちゃんは小さいながらにすごく頭を使っている事を確認し、嬉しかった。

③ 出産の場面（23名が記述）

・出産場面に感動した。
・赤ちゃんも色々頑張っている。
・自分もそうやって生まれたのかと不思議な気持ちになった。
・人間の誕生はすごい。神秘的。
・母子の繋がりの強さをみる事ができた。
・男は絆を作るのは大変だ、到底無理だ。
・出産は母親と赤ちゃんが一緒になって行うものであると感じた。
・本当に素晴らしい。神秘はすごい。
・赤ちゃんにとって母親は大切な存在だ。
・頭を回転させたり、時間をかけて出てくるのがすごい。
・陣痛がとても辛そうだった。怖い。
・自分の母親もこうして私を産んでくれたと思うと感動した。
・赤ちゃんが生まれた瞬間感動で涙が出た。
・陣痛が胎児の脳から信号が出ているとは知らなかった。
・出産の流れをわかりやすく説明していて、出産までの過程を見ていたら泣いてしまいそうなくらい感動した。
・自分のこどもが欲しい。自分は絶対親ばかになる。
・女性は苦しくてこどもを産むのに、男性は見ている事しかできないという事にもどかしさと

悔しさを感じた。
・赤ちゃんは親や自分のために一生懸命頑張って生まれてくる。何もできないわけではない。
・長い時を経て、赤ちゃんも親もたくさんの事を経験して出産し、親子の絆が深く刻まれたのに、離婚や虐待をしてしまうのは何故だろう？
・自分の母親もこうして私を産んでくれたと思うと感動した。
・お母さんへの感謝の気持ちを忘れないでいたい。
・将来自分もこどもを産むのが楽しみ。

④　出生後の赤ちゃんに対して（15名が記述）
・抱っこしたくなった。
・生まれた瞬間から手でつかんだり、歩いたりして赤ちゃんの力を感じた。
・今後生まれたばかりの赤ちゃんに触れる事ができればと改めて思った。
・母性本能をくすぐる生命体
・純平君かわいい。
・赤ちゃんは何もできない?そんな事はない。小さな身体で沢山の事を感じている。
・生まれてからもお母さんの対応が予想以上に赤ちゃんに影響する。
・赤ちゃんに触れたり、声をかけたり、沢山関わる事でどんどん成長していく。
・赤ちゃんはかわいがられるための努力を一生懸命している。
・とてもかわいくて、大切なものと感じた。神秘的。
・思っていたより大きくてびっくり。
・母親の強さと愛情を感じた。
・陣痛は辛く痛いはずなのに、対面した時、「良く頑張ったね」と声がけし、赤ちゃんを一番に考えているのだとわかった。
・赤ちゃんにとって父親・母親は大切な存在。
・お母さんとこどもの掛け合いが上手だと思った。

⑤今までの授業との関連（９名が記述）
・赤ちゃんの持つ力は他の授業でも学習したが、少し違った観点もあったのでおもしろかった。
・妊婦と関わる機会がなかったので知る事ができた。
・１年生で学んだ内容を、目と耳で再確認した。
・授業で赤ちゃんは色々な事ができると知っていたが、改めてすごいと思った。
・１年生の授業で習った事が含まれていた。（おっぱいを飲む時の声かけ）
・赤ちゃんは無能ではないと他の教科でも習っていたが、想像以上に有能だった。（周りと深く関わろうとしている）
・発達心理学や乳幼児心理学で習っていたが、改めてすごいと思った。
・１年生の時の講義は実感がなかったが、実感できた。
・胎児の時の記憶について、今までの授業でも出てきたが、実感した。

⑥その他（５名が記述）
・大橋夫妻の喜ばしい顔が良かった。
・７か月の赤ちゃんが身近にいるので、とても会いたくなった。
・赤ちゃんの表情がたくさん変わり、とにかくかわいかった。
・赤ちゃんを見ているだけでこの教室内の皆が笑顔になるし、明るい気持ちになっていた。やっぱり赤ちゃんはすごい。
・夢はお母さんになる事。

2. 授業後アンケート結果

1）ビデオ鑑賞のその後の授業への効果（n=51）（図7）

効果について「大変役立った」「まあまあ役立った」「少し役立った」「役立たなかった」の４択で回答してもらった。

最も多かったのは「大変役立った」29名（55.8％）、次いで「まあまあ役立った」17名（32.7％）、「少し役立った」４名（7.7％）、「役立たなかった」０名（0％）、無記入1名（1.9％）であり、「役立った」と回答した者が88.5％であった。

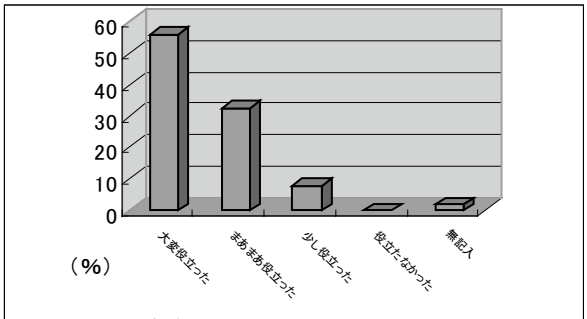

図7　ビデオ鑑賞のその後の授業への効果

2）役立った具体的内容（自由記述）

・出産についての知識が増えた。
・どのように赤ちゃんが生まれてくるのか等映像で見るとわかりやすい。
・出産時の赤ちゃんの様子が良くわかった。その後の授業にも興味を持つきっかけになった。
・医学・病理的な側面から乳幼児を捉える根底に一人の人間として愛されて生まれてきている事を認識できた。
・乳幼児についての学習を行うにあたって、実際にビデオを見る事により、さらにもっと知りたいという意欲が高まった。
・親子のつながりを感じた。
・命の重さを感じながら授業の一つ一つを理解した。
・赤ちゃんの成長の様子が良くわかった。
・感動して涙が出ました。改めて命の大切さや出産の大切さを知る事ができたので、赤ちゃんについての意識が変わりました。
・乳幼児の保健を学ぶにあたっての心構えになった。
・ビデオを見て、赤ちゃんについて学習しようと気合いが入った。
・映像を見ていたのでその後の授業でイメージしやすかった。
・母親の関わり方が印象的で、その大切さを再確認してから学習する事ができた。
・赤ちゃんが生まれるのは素敵な事だなと感じながら授業を受ける事ができた。
・身近に赤ちゃんと触れ合う機会のない者にとって、分かりやすい導入となった。
・赤ちゃんと母親の絆や生命力の強さに気づき、講義に対する興味が上がった。
・赤ちゃんは私達が知らないだけで、色々な事ができるのだとわかった。
・赤ちゃんがお腹にいる状態がどのような様子なのかを知る事ができたので、その後の授業で胎児期の話を聞いた時、思い浮かべながら聞く事ができた。
・赤ちゃんがどう生まれてきて、これからどうなるのか興味を持った。
・赤ちゃんの姿を見る事によって、今後の授業を意欲的に受けられた。
・母親とこどもの繋がりを見て授業に入りやすかった。
・親にとってこどもはどのような存在なのかがわかり、その子を預かるという事は重要な役割だと改めて知った。
・将来使える知識であったり、１年生の復習になる事が沢山あった。

Ⅳ．考　察

1．学生の学習レディネスである親性準備性について

1）乳幼児と関わった経験の有無とその内容

学生は平均年齢19歳という青年期にあたり、親性準備性の時期としても重要な時期である。その点を充分考慮し、教授する必要がある。

筆者は以前、171名の中学生を対象に「中学生の乳幼児に対する感情及び乳幼児との関わりと内容」に関する調査[3]を行った。中学生の場合乳幼児と関わった経験がある者は72.5％であったが、本研究の結果は98.0％と、ほとんどの学生が経験を積んでいる現状である。また、川瀬の「社会心理学」を受講している学生163名を対象にした調査した「大学生の親準備性に関する研究」の結果では、「子どもと接したり、世話をしたりする体験を持つ学生は全体の21.5％と必ずしも多くないこと、（中略）・・・弟や妹の世話、親戚の子ども

の面倒など、生活の中で乳幼児と接する機会はさらに少ないことが分かる」[4] と述べている。この結果と比較すると、本学科の学生は乳幼児との関わりへの意識も高いと考えられる。特に本学科の学生の様に、将来の希望（教諭や保育士を目指している）が明確な学生にとって、乳幼児との関わりの経験がある事は学習レディネスを捉える上で重要なポイントとなると考える。

また、乳幼児と関わった機会についても、中学生では「親戚のこども」「友達の弟や妹」「近所のこども」「自分の弟や妹」「両親の友達のこども」の順[3] であったが、本研究においては「保育ボランティア」が最も多く（49.0％）、次いで「近所の 乳幼児」「自分の兄弟姉妹」「友人の兄弟姉妹」「中学・高校の授業」「親戚のこども」「習い事を教えている」「オープンキャンパス」の順であり、主体的・積極的な経験をしようとする意識が高められている状況である。保育ボランティアでは主に乳児よりは幼児に対する体験が多いものの、全く乳幼児に触れた事がないという状況ではない。

具体的な関わりの内容については、中学生の場合最も多かったのは「あやしたり遊んだりした」91.9％、「抱っこ」67.7％、「食事を食べさせた」「服を着替えさせた」各20.2％、「ミルクを飲ませた」16.1％、「おむつ交換」8.9％ [3] であったが、本研究では、「遊ぶ」98.0％、「散歩」56.9％、「寝かせつける」52.9％、「衣服の着脱」「絵本を読む」51.0％、「ミルクを飲ませる」「食事を食べさせる」37.3％、「おむつ交換」35.3％、「お風呂に入れる」31.4％、「排泄の援助」27.5％、「抱っこ」21.6％、その他「歯磨き」「スキー・水泳・柔道を教える」7.8％であり、乳幼児との関わり方の導入は似ているものの、保育ボランティアによる具体的な活動により、経験する内容にも幅が広がっている状況が見られた。学生は入学後も様々な教科により、乳幼児に関する知識や技術を修得しているが、学生の中で全てが関連づけられたり、統合されている訳ではない。

2）　乳幼児に対するイメージ（感情）

中学生を対象にした調査では「かわいい」78.2％、「楽しい」53.2％、「大好き」22.8％、「関心がある」22.2％、「めんどくさい」8.1％、「関心がない」5.6％、「嫌い」2.4％、「かわいいと思えない」「楽しくない」各1.6％ [3] であったが、本研究においては、「かわいい」98.0％、「愛らしい」94.1％、「楽しい」66.7％、「うれしい」52.9％、「うるさい」17.6％、「うっとおしい」3.9％、「いらいらする」「かわいくない」各2％と、肯定的感情の割合が増加していた。この結果から、学生は様々な育児体験を増やす事により、乳幼児に対する感情を豊かに育んでいる様子が伺える。

川瀬の研究結果においても、「子育て体験のある学生は、子育て体験のない学生よりも、乳幼児への好意感情が高かった」[4] と述べており、本研究の結果からも、学生の親性準備性の高さが予測される。以上の結果から、学習レディネスとして必要な要素として次の３点があげられる。

① 乳幼児との関わりの経験がある事
② 乳幼児に対する豊かな感情が育っている事
③ 乳幼児と関わる経験の内容が充実している事

その他、「結婚願望」や「子育て願望」等「親になるイメージ」の到達度の確認も必要と考えられる。これらの学習レディネスを考慮しながら、教授内容を検討しなければならない。

学生は乳幼児と言えども、「胎児」や「乳児」に直接関わった経験を持つ学生は少ない。そこでビデオ映像ではあるが、擬似体験をする事で学生の学習レディネスの幅を広げ、「小児保健」の到達目標である「自分なりの育児観」を形成するための動機づけとしてこのビデオを選択した。

2.「赤ちゃんこのすばらしき生命」鑑賞の動機づけとしての効果

この作品[注1] は、1993年４月18日にNHKスペシャルとして放映されたドキュメンタリー番組をビデオ化したものであり、最近の医学の進歩で、これまで「何もわからない受け身の存在」と言わ

れてきた赤ちゃんの驚異的な能力を最新の科学が明らかにした斬新な映像で紹介している。是非保育を目指す学生にも疑似体験してもらい、自分なりの育児観の形成の動機づけにして欲しいという思いから、筆者が既に７年前から保育専門学校の「小児保健」の授業において学生に鑑賞させた経緯のある教材である。

鑑賞の結果は、教員が予想していた通り、「ためになった」「感動した」という反応であった。

学生が鑑賞の中で、どの場面に興味・関心を持ったのかを知る事は、この教材の使用が効果的であったかを判断する材料になる。結果、最も多かったのは「胎児の子宮の中の様子を描いた場面」「出産の場面」であった。この結果は、学生が親性準備性の時期である事を考えると、当然の反応であり、「親になるイメージ」を膨らませる絶好の機会となる。また、学生は今まで学んだ様々な教科の意義を明確に意識し、「こどもの成長・発達」の様子を一直線上に統合する事ができる。その上、今まで机上で教科書の知識として学習してきた内容の意味を再確認する機会にもなる。特に親子関係の重要性については、出生前からの関わりの重要性を痛感し、さらに乳幼児と関わる事の重要性へと繋げ考えていく事となる。

廣森は、動機づけのプロセスと動機づけ方略との関連において、動機づけを高める指導実践の構成要素として、「基礎的な動機づけ環境の創出・学習開始時の動機づけの喚起・動機づけの維持と保護・肯定的な自己評価の促進」の４つのカテゴリー[5]を述べている。さらに、「動機づけを効果的に喚起するためには、学習者の興味・関心を喚起するような適切な学習目標や学習課題設定が必要不可欠となる。」[5]と述べており、本学科では、第１回の講義において、小児保健の到達目標及び学習内容を提示する際、ビデオ鑑賞の説明をし、授業前アンケート調査を行う事で、自己の親性準備性の意識づけを行っている。また、廣森は動機づけを効果的に維持していくためには、「励まし・自信を促進するような働きかけや学習者の自尊心を保護することが有効だと考えられる。」[5]と述べている。本学科ではこの方略に対し、「学習要点レポート」を毎回記述させ、学習に対する自己評価・疑問点の明確化・授業の感想を述べさせ、教員が添削し個人に返却する中で、励まし・自信を促進する働きかけをしている。最後に廣森は「学習成果を見える化し、何ができるようになり何が課題として残っているのか客観的に確認することにより、次の行動へのより良い動機づけを与える事ができる」[5]と述べている。本研究で得た結果は学生全員に資料として配布し、これからの授業に活用できるように試みた。学生の感想としての生の声からも、「興味深かった」「わかった」「感じた」「疑問」「自分もああなりたい」等、様々な感情を抱き、興味・関心を寄せ、これからの授業への意欲・関心・興味に繋がっていった。特に学生は、生命の神秘だけでなく、*生命の尊さ*を実感していくようであった。また、男子学生は出産場面から女性の偉大さを痛感し、「自分が結婚して夫・父親になったら」と、男性の育児に対する関わり方を模索するきっかけにもなっている。父親の役割を意識する事はその後の「親イメージ」や「親意識」にも影響を与えるものと思われる。

3. ビデオ鑑賞のその後の授業への効果

ビデオ鑑賞が一次的な学生の感情への影響で終わるのではなく、「小児保健」全期を通して効果的な動機づけとなる事が重要である。本研究では、その後の授業にどう影響したのか、どのような効果をもたらしたのかを調査した。その結果、「役立った」と回答した学生は88.5％であり、その後の授業にも効果をもたらしたものと考える。

具体的には、「その後の授業への興味を持つきっかけ」「さらにもっと知りたいという意欲」「命の重さを感じながらの授業参加」「小児に対する意識の変化」「授業への意欲」「イメージ化」「職業意識の向上」等に繋がったものと考えられる。

4. 小児保健（こどもの保健）を何故・どのように学ぶべきか（図8）

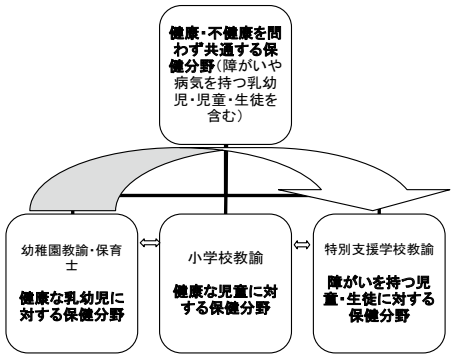

図８　小児保健の概念（筆者考案）

図８は筆者が考えた小児保健の教授概念である。本学科において取得可能な免許･資格として、幼稚園教諭一種・保育士・小学校教諭一種・特別支援学校教諭一種の4つの免許・資格がある。学生は将来どの職業を選択するかによって必要な科目を履修するわけであるが、「小児保健」の科目はこの図でもわかるように、どの免許・資格にも共通する科目なのである。幼稚園教諭・保育士では主に「健康な乳幼児に対する保健」、小学校教諭では「健康な児童に対する保健」、特別支援学校教諭では「障がいを持つ児童・生徒に対する保健」の知識が要求される。これらの保健はお互いに影響され関連しており、各教員・職員の連携が重要になってくる。本学科の学生は幅広く小児保健を学べるチャンスがあると思われる。教員は、「小児保健」の授業内容を組み立てる場合、教育課程に添う事は勿論であるが、本学科の特徴も活かしながら教授する内容となるよう考慮する必要がある。

こどもが障がいがあるなしに関わらず、幸福に生活し、成長・発達する事は「児童の権利」[6] でもある。誰もが病気せず健康で生き生きと生きていきたいと願っている。また、例え病気や障がいを持ったとしても、その子らしく生き生き生きるための「生きる力」を獲得する事が「小児保健」の目的でもある。「小児保健」は時代や環境が変化するに伴い、求められる内容も変化する。私達専門家は常にアンテナを張り巡らし、こどもを取り巻く環境に敏感でなければならない。

だとすると、教諭や保育士を目指す学生にも常に「主体的に行動できる感性」を養って欲しいと願う。既存の机上の知識だけではなく、現代社会で起きている現象や私達が歩んできた歴史の中から学ぶ姿勢を持つ等、広い視野で物事をとらえる事が重要である。また､指示待ち症候群ではなく、自ら解決しようとする力を身につけて欲しいと願う。

そのためには､**「興味」「関心」「意欲」**を授業の中でいかに喚起させられるかが、教員に求められる力量であろうと考える。筆者は日頃授業の中で、教科書一辺倒の授業ではなく、「何をどのように伝えるか」を模索し、構造化する努力をしている。

学生は経験が少ない。その経験の幅を身近な教材や豊富な体験談を学生に伝える事でよりイメージ化を図り、学生に考えさせる授業を心がけている。そうする事で学生が「覚える事が沢山で大変だ」と叫びながらも生き生きと授業に参加し､「私が保育者になったらこうしたい」という希望や夢を語ってくれるようになるのだと考える。

実際､毎回提出させている「学習要点レポート」は､「学生個人の学習目標管理」「どの点に疑問を抱いたか」「今後の学習の努力点」「職業意識」等、様々な学生の成長がひしひしと伝わってくる学習プログラムであると感じているが、詳細の記述はまたの機会にしたいと考える。

学習者のレディネスを明確化し教授する事で、学生は確実に教員が予想していた以上の成長を遂げている。つまり、確実に「行動変容」を遂げるのである。今後も学生の立場に立った｢動機づけ｣を考慮しながら客観性のある授業の計画・実践・評価を行っていきたいと考える。

Ⅴ．結　語

1. 乳幼児と関わった経験「あり」の者は98.0％であった。

2. 乳幼児と関わった機会で最も多かったのは「保育ボランティアで関わった」49.0％、次いで「近所の乳幼児と関わった」45.1％であった（複数回答）。
3. 乳幼児と関わった内容で最も多かったのは「遊び」98.0％、次いで「散歩」56.9％であった（複数回答）。
4. ビデオ「赤ちゃんこのすばらしき生命」鑑賞後の感想で最も多かったのは「ためになった」72.5％、次いで「感動した」70.6％であった（複数回答）。
5. ビデオ「赤ちゃんこのすばらしき生命」の鑑賞がその後の授業に「役立った」と思う者は88.5％であった。

以上の事から、小児保健における授業の到達目標を達成するための動機づけとして使用した視聴覚教材であるビデオ鑑賞は効果があると評価された。今後も継続して行きたい。

しかし、本研究の限界として、質問紙調査の内容が筆者が独自に考案したものであり、やや客観性に欠ける面もあったため、今後は動機づけ理論に基づいた授業評価尺度の応用も含め、より客観性のある授業評価を行っていきたいと考える。

また、親性準備性の尺度を応用し調査する事で、学生の学習レディネスを幅広くとらえ、学生の「興味」「関心」「意欲」を喚起させるような授業内容が展開できるよう今後も教授法の改善に努めていきたいと考える。

注

1) この作品は、NHKエデュケーショナル発行（社）日本家族計画協会健康教育推進本部発売のビデオであり、26分の上映時間の中で次の様な内容が盛り込まれている。＜胎児＞の場面では、羊水を飲む＝肺を膨らませて肺呼吸の準備、眼球を動かす＝視力の発達、外部の音にも敏感、＜出産時＞の場面では、ホルモンを分泌させて陣痛を促す・狭い産道を通過する時の回旋、＜新生児＞の場面では、体内音への反応＝体内での記憶、母親の話しかけへの反応＝しゃべる能力の養成の３場面から構成されている。母親教室や思春期教室をはじめ看護・保育系の教材に最適である。

文　献

1) 後藤さゆり、奥田雄一郎、平岡さつき、呉宣児、大森昭生、前田由美子：青年期における「親になること」の教育的意義の検討．共愛学園前橋国際大学論集（10）：208，2010.
2) 阿部和厚：大学教育における視聴覚授業－特に医学教育を中心として－．高等教育ジャーナル（北大）第1号：191，996.
3) 工藤恭子：中学生の乳幼児に対する感情と父親の実子に対する感情との関連．北海道文教大学研究紀要第34号：3，2010.
4) 川瀬隆千：大学生の親準備性に関する研究．宮崎公立大学人文学部紀要17（1）：33，2010.
5) 廣森友人：学習者の動機づけと英語熟達度が動機づけ方略への認識に与える影響．立命館言語文化研究22（3）：161-166，2011.
6) 佐藤益子：子どもの保健Ⅰ．神奈川，ななみ書房，2011，10.

Students' Learning Readiness: an Attempt to Motivate Learning and its Evaluation

− An analysis of pre- and post-class survey results −

KUDO Kyoko

Abstract: This study aimed to gain an understanding of learning readiness among students taking Child Health I and to evaluate the educational effect of viewing 'Baby: this wonderful life', a video that encourages goal achievement. A survey of 51 students conducted before and after the class revealed the following: 1) 98.0% of the students had experienced engaging with infants; 2) the most common opportunity to engage with infants was 'as a child-care volunteer' (49.0%) (multiple answers); 3) the most common way of engaging with infants was 'through play' (98.0%), followed by 'taking a walk' (56.9%) (multiple answers); 4) the most common feedback given by students after viewing 'Baby: this wonderful life' was that they felt it was 'educational' (72.5%), followed by 'it was touching' (70.6%) (multiple answers) and 5) 88.5% of the students felt that viewing the video was 'beneficial' for learning in the rest of the class. These results indicate that the viewing of a video is effective in helping to motivate students in Child Health I.